令和五年度　垣生中俳句会　十二月入賞作品

金賞　二度寝して約束やぶる冬の朝　二年

休日に遊ぶ約束をしていたのでしょうか。冬の朝の寒さは厳しくて、楽しい約束も破ってしまうほど。布団の中の温かい誘惑にはなかなか勝てませんね。そんな誰しも経験する出来事ながら、五・七・五の音律にうまく乗せることができ、俳句としてきちんと成立しました。季語も「冬の朝」ですから、平易で気負わず素直な思いを句にしたことで成功しました。

銀賞　初おでん学校帰り猛ダッシュ　一年

おでんは冬の季語として一般的なものですが、「初おでん」と作者独自のものにし、その期待の大きさがよく伝わります。朝の家族との会話で、「今日の夕食はおでんだ。」と楽しみにしていたのでしょう。「猛ダッシュ」という言葉に作者の気持ちがよく表れていて、先生たちの支持も多かったです。　～おでん屋の湯気吹き飛ばす空っ風　高浜虚子～

銀賞　補助輪を外してあげる小春の日　三年

「外してあげる」から、幼い弟妹に対する行動だと想像できます。「小春の日」は、小春日和（こはるびより）ともいい、晩秋から初冬にかけての、穏やかに晴れた天気を表す季語です。そんなうららかな日には、補助輪を外しての自転車練習にはうってつけ。仲の良い家族の微笑ましい姿が目に浮かびます。～島の猫人なつこくて小春かな・あさなが捷～

銅賞　笑い声紅葉もゆれるいちじ句会　二年

「いちじ句会」は、昨年度より始まった垣生公民館と垣生中の連携した取り組みです。垣生地区の名産「いちじく」と「句（く）会」を掛けて、「いちじく会」と名付けられました。今年度も十一月下旬、生徒会役員とその担当の先生で吟行に出かけ、その後、公民館で句会を行いました。そのことを早速俳句にした作者です。秋の一日、とても楽しそうな句会の様子が伝わってきます。

銅賞　みそ汁の白菜の音シャキシャキと　三年

「の」の多用で畳みかけるようなリズムを出して巧みです。「シャキシャキ」という擬音語も効いています。この語を下五に置いたのもいいですね。白菜は、冬の食卓には欠かせません。農家の縁先や庭に並べられた白菜の白さは冬の風物詩ですね。～寄鍋の白菜雪のごとくなり　山口青邨～

銅賞　交差点転がる枯れ葉踏む車輪　三年

交差点で見た一瞬の風景を切り取った句です。中七と下五が対句のように対応していて面白い構成になっていますし、これによって小気味よいリズムが生まれています。俳句は作者独自の着眼点と定型のリズムの両方がうまく響き合うと佳い作品になります。この作者はその辺のこつを三年間に習得したのでしょう。垣生中俳句会入選の常連となりました。

入選

冬の朝あわい青色溶ける息	一年
祖母の家吊るした干し柿お出迎え	一年
空を指ししゃがんで教えるオリオン座	二年
冬の空飛んでみたいと考えた	二年
あったかいコーンスープ飲む冬の朝	二年
おみくじの待ち人来る冬うらら	二年
冬の朝ブランク感じる筋肉痛	三年
寝る前のほっとひと息冬北斗	三年
黒板消し窓ぎわ並んで日向ぼこ	三年
遠い友心は近し冬の暮	三年
南西の我が部屋の午後日向ぼこ	三年
妹の自転車練習息白し	三年